



山中湖文学の森
三島由紀夫文学館開館
10周年記念
フォーラム

平成**21**年(2009年) **11月21日** (土)
14:00開始

パネリスト紹介

ドナルド・キーン (Donald・Keene) / 日本文学研究者・文芸評論家
横尾忠則 (よこお・ただのり) / 美術家

司会者紹介

井上隆史 (いのうえ・たかし) / 白百合女子大学教授
佐藤秀明 (さとう・ひであき) / 近畿大学文学部教授

- 受 付 / フォーラム会場/清溪 ☎0555-62-0020 三島由紀夫文学館から徒歩4分 駐車30台
- 申 込 方 法 / 往復はがき・FAX・電子メール(メールアドレス info@mishimayukio.jp)のいずれかで
①住所②氏名③電話・FAX番号
を必ず明記の上、当館にお申し込み下さい。なお複数名でのお申し込みの場合もそれぞれの
①住所②氏名③電話・FAX番号の明記をお願いいたします。
- 申 込 締 切 / 平成21年(2009年)11月20日(往復はがきの場合は11月16日必着)。受付は先着順とさせていただきます。
- フォーラム参加費 / 無料(当日は入館料も無料となります)
- 申込・問合せ先 / 山中湖文学の森・三島由紀夫文学館 〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野506-296
☎0555-20-2655 ㊟0555-20-2656 メールアドレス info@mishimayukio.jp
- 主 催 / 山中湖村・山中湖村教育委員会・三島由紀夫文学館
- 宿泊問合せ先 / 山中湖観光協会 ☎0555-62-3100 ㊟0555-62-6181

MISHIMA YUKIO LITERARY MUSEUM
山中湖文学の森・三島由紀夫文学館
<http://www.mishimayukio.jp>


Yamanakako
山梨県・山中湖



山中湖文学の森 三島由紀夫文学館開館 10周年記念 フォーラム

パネリスト紹介



ドナルド・キーン

(Donald Keene) / 日本文学研究者・文芸評論家

1922年、ニューヨーク生まれ。1938年コロンビア大学に入学、好奇心で購入したアーサー・ウェイリー訳『源氏物語』に魅せられる。同校で日本思想史を教えていた角田柳作の講義を受講。1941年、日米開戦に伴い、海軍語学校に入学、日本語を学ぶ。戦争中は情報士官として、日本語の通訳を務めた。終戦後、コロンビア大学に戻り、日本文学を研究する。同大学院、ケンブリッジ大学を経て、京都大学大学院に留学。現在、コロンビア大学名誉教授。主な受賞は菊池寛賞、読売文学賞、日本文学大賞、毎日出版文化賞、文化勲章など。三島由紀夫に関する主な著書に『碧い眼の太郎冠者』『日本の作家』『日本文学を読む』『日本を理解するまで』『日本文学のなかへ』『私の日本文学道』『二つの母国に生きて』『声の残り私の文壇交遊録』『このひとすじにつながりて』『日本語の美』『思い出の作家たち』『私と20世紀のクロニクル』など。共著に『悼友紀行 三島由紀夫の作品風土』。



横尾忠則

(よこお・ただのり) / 美術家

1936年、兵庫県生まれ。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ベネチア、サンパウロなど世界各国のビエンナーレに出品するなど国際的に活躍。パリのカルティエ現代美術財団をはじめ海外での発表が多く、また、東京都現代美術館、京都国立近代美術館、金沢21世紀美術館など国内の美術館でも相継いで個展を開催している。主な受賞は毎日芸術賞、ニューヨークADC殿堂入り、紫綬褒章、日本文化デザイン大賞、円空賞など。小説『ふるうらんど』では第36回泉鏡花文学賞を受賞した。

三島由紀夫に関する主な著書に『インドへ』『横尾忠則自伝』『死の向こうへ』『病の神様』『横尾流現代美術』『横尾忠則 画境の本懐』など。

三島由紀夫に関わる主な作品に『椿説弓張月』ポスター、『新編版薔薇刑』装幀、『男の死—三島由紀夫とヴァーグナーの肖像』『三島由紀夫の声(未完成)』『三島由紀夫とニーチェ』『三島由紀夫とR.ヴァーグナーの肖像』『男の死』『天地の愛』『死の愛』『理想の実現』など。

横尾忠則オフィシャルホームページ <http://www.tadanoriyokoo.com>

司会者紹介

井上隆史(いのうえ・たかし/白百合女子大学教授)

佐藤秀明(さとう・ひであき/近畿大学文学部教授)

プログラム

11月21日(土)

13:00~14:00	フォーラム会場・清溪ホールにて入場受付
14:00~14:10	開会挨拶 山中湖村村長・高村忠久
14:10~15:15	横尾忠則『三島さんと会った日々』
15:15~15:25	休憩
15:25~16:30	ドナルド・キーン『三島由紀夫の演劇』
16:30~16:45	休憩/質問用紙回収
16:45~17:45	質疑応答
17:45~17:55	閉会挨拶 三島由紀夫文学館館長・松本徹
18:00	閉会

交通アクセス

鉄道・路線バス▶JR中央線大月駅 富士急行線 約50分 富士吉田駅 路線バス・湖東線・早稲川線 約25分 文学の森公園前バス停 徒歩 2分 清溪
▶JR御殿場線御殿場駅 路線バス・富士吉田駅・河口湖駅行き 約40分 文学の森公園前バス停 徒歩 2分 清溪
高速バス▶新宿駅西口ターミナル 高速バス 約150分 山中湖(旭日丘)バスターミナル 徒歩 15分 清溪
※京王高速バス予約センター ☎03-5376-2222
マイカー等▶山中湖IC 国道138号線 約4km 清溪

1999年7月に三島由紀夫文学館が開館して、ちょうど10年になります。開館翌年の11月から、新潮社刊『決定版三島由紀夫全集』に数多くの未発表資料(小説、戯曲、評論、詩歌、書簡、創作ノート等)を提供し、文学館としての公共的な役割を果たしてきました。これらの未発表資料は学習院時代に執筆した作品が多く、不朽の名作を生み出した三島文学の源流の豊かさを物語っています。

このたび、開館10周年を記念して、ドナルド・キーン氏、横尾忠則氏に講演していただくことになりました。

キーン氏は1954年11月、三島作『鬪売恋曳網』の上演中に三島と歌舞伎座で出会って以来、16年間親交を重ね、『近代能楽集』『宴のあと』『サド侯爵夫人』などを翻訳し、日本文学の研究とともに三島文学を世界に紹介する大きな役割を果たしました。

横尾氏は1965年、吉田画廊の個展中に憧れの三島由紀夫と出会い、三島を釘付けにした『眼鏡と帽子のある風景』を贈呈しました。このことがきっかけで、「女性自身」に連載の「おわりの美学」のイラストを担当。『新編版薔薇刑』の装幀に己の涅槃像を見た三島は「あの絵は非常に気に入っている。よく俺を理解してくれた」と横尾氏に言い、その三日後に自決しました。

三島由紀夫が自決して39年が経過しようとしている今でも、三島に関する出版物は衰えることを知りません。その魅力とは何か、三島由紀夫と親交のあった両氏にその秘密を語っていただきます。

